

中期目標・中期計画（素案）検討状況

検 討 内 容	検 討 状 況
大学の教育研究等の質の向上に関する事項	
<p>中期目標で、「出口管理」の部分をどう整理するか。 （前回会議の委員意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような学生を卒業生として送り出すかというディプロマポリシーを目標で謳うべき。 	<p>卒業生として送り出したい学生像について、中期目標前文、教育に関する目標に記載しており、本目標に沿って学生の教育を進めていく。</p> <p>【中期目標・中期計画】 （ P 2 ）</p> <p>公立大学法人熊本県立大学は、次のような人材を育成する。</p> <p>学士課程教育</p> <p>論理的思考能力の育成を重視し、自ら課題を抽出・設定し、課題分析・総合判断ができる能力を有する人材を育成する。</p> <p>また、積極性、自律性及び行動力を身につけた、社会状況の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。</p> <p>さらに、地域社会及び国際社会に興味・関心を有し、異質性を認めることができ、協調性があり、社会においてネットワークの形成ができる能力を涵養する。</p> <p>大学院教育</p> <p>各分野において、地域社会の問題をはじめ、国内外の諸課題について発見・解決できる実践的能力を備えた専門職業人-社会人の再教育を含む-や研究者の養成を目指す。</p>
<p>情報教育の内容 （前回会議の委員意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報教育の内容は情報スキルだけでなく、情報モラルも含めるべき。 	<p>現行の情報教育は情報モラルを含めて行っており、中期計画に情報教育の内容として、情報モラルを明記する。</p> <p>【中期目標・中期計画】 （ P 4 ）</p> <p>高校における情報教育との継続性を図り、現代社会で必須のコンピュータ利用スキル（タッチタイピング能力、文書作成能力、データ集計能力、情報検索・情報発信能力、プレゼンテーション能力等）とともに、<u>情報モラル</u>を修得させるため、情報処理基礎科目を全学共通の必修科目として設定する。また、各学部の専門領域との連携を推進するため、カリキュラムについて点検しながら、必要な見直し、時代の変化に合わせた情報教育を行うとともに、各学部の専門科目において、情報機器を積極的に利用した授業を行う。</p>

<p>教養教育の方向性及び学内体制について (前回会議の委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クリエイティブな人材を育成するために、教養教育をきちんとやらないといけない。 ・ 県大の学生として共通した教育を受けることが大事。「新熊本学」は、全学共通的にやっていたきたい。 ・ 県大は、規模的に見ても「分化」ではなく「総合化」に向かうべき。 ・ パースペクティブに物事が見れる人間を育てるという方向が見えると良い。 	<p>教養教育のあり方について学内で検討し、方針をとりまとめたところ。</p> <p>方針に沿って、教養教育専門委員会において具体的な検討を行い、平成20年～平成21年度を目途に教養教育カリキュラム改正を行う。</p> <p>方針では、教養教育の重要性を再認識し、学生が共通に学習すべき教育内容を全学共通教育として実施することとしている。</p> <p>教育内容については、「新熊本学」等の地域関連科目の内容充実を図り、「地域学」(仮称)として科目群を再編。</p> <p>外国語教育、情報教育についても見直し等を行う。</p> <p>【中期目標・中期計画】</p> <p>(P4)</p> <p>教養教育については、カリキュラムの管理・運営について責任及び権限を有する体制を整備し、全学共通のカリキュラムとして実施する。</p> <p>また、目標に掲げる教育を効果的に行うため、現行カリキュラムの点検、見直しを行う。</p> <p>(P5)</p> <p>「新熊本学」等の地域関連科目の内容を充実するとともに、体系化して教養教育の領域として設定する。</p>
<p>高大連携の方向性 (前回会議の委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高大連携では、公立大学として、トップランナーとしての取組が必要。 ・ 学生の質が変化していることを認識した教育が必要。 	<p>これまで、出前講座等に取り組んできており、今後、「県教育委員会等との連携により高校教育と大学教育双方の充実改善に資する高大連携を推進する。」(中期計画記載案P6)こととし、平成18年度から検討を行う予定。</p>

検 討 内 容	検 討 状 況
業務運営の改善及び効率化に関する事項	
<p>事務サポート体制の構築 (前回会議の委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育、研究、学生生活支援、国際交流、地域貢献など全ての面において、しっかりした事務サポート体制をどのように構築していくか検討が必要。 	<p>事務組織機能を充実させるため、学内外での職員研修等の実施活用により、大学特有の業務に精通した専門性の高い職員を養成していく。</p> <p>【中期目標・中期計画】 (P 17)</p> <p>事務組織機能を充実させるため、学内外での研修等の実施・活用により大学特有の業務に精通した専門性の高い事務職員を養成するとともに、法人独自の事務職員の採用についても検討する。</p>
教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項	
<p>評価の方法及び、その実施機関 (前回会議の委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定された数値目標をさらに、わかりやすくするために、その達成状況の報告を含めた評価の方法を具体的に示すことと、自己点検・評価を十分にやれる体制を学内で作っていくことが重要。 	<p>評価の方法や基準については、評価を行う機関が定めることになっているが、ご指摘の点も含め、検討中。</p> <p>学内体制については、現行の自己点検評価委員会を、理事長を委員長とした評価委員会として再構築する予定。</p>
教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る情報提供に関する事項	
<p>大学広報の方向性と方策 (前回会議の委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の情報の共有・活用・発信を積極的に行っていただきたい。 オープンキャンパスに限らず、学園祭など、気軽に大学を知ってもらおう取組、在学生の口コミによる PR が必要。 	<p>広報広聴の体制、重点広報事項等について検討中であり、年度内に基本方針としてとりまとめる。</p> <p>ホームページも、トップページの見直しや検索機能の付加、対象者別ページの作成等を行い、法人化と同時にリニューアルする。</p> <p>【中期目標・中期計画】 (P 18)</p> <p>広報活動を一元的かつ効率的に行う体制の充実を図る。</p>